

# 板倉町における景観資源の認知実態に関する研究

東海林 克彦\*

## 1 はじめに

景観は、対象を眺める人間（主体）と眺められる対象（客体）との間に成立する現象である（図1参照）。このため、主体の特性、客体（対象そのもの）の特性、両者の関係性によって様々に変化する多様な存在であるともいうことができる。したがって、景観の把握に当たっては、客体（視覚対象）の物理的状況だけでなく、主体と客体との位置関係に代表される関係性、および主体（人間）の属性及び心理的状況などを総合的に検討する必要がある<sup>1)</sup>。

また、景観は環境の総合的指標であると捉えられているが、環境の視覚的側面を表現しているものと換言することが可能であり、個々の環境要素はもとより、それらが組合わさって全体としてできあがっている環境の状況を総合的に表す指標としての機能を有している。

しかし、景観は、短期的には日時による光線方向、天候、季節等により様々な様相を呈し、長期

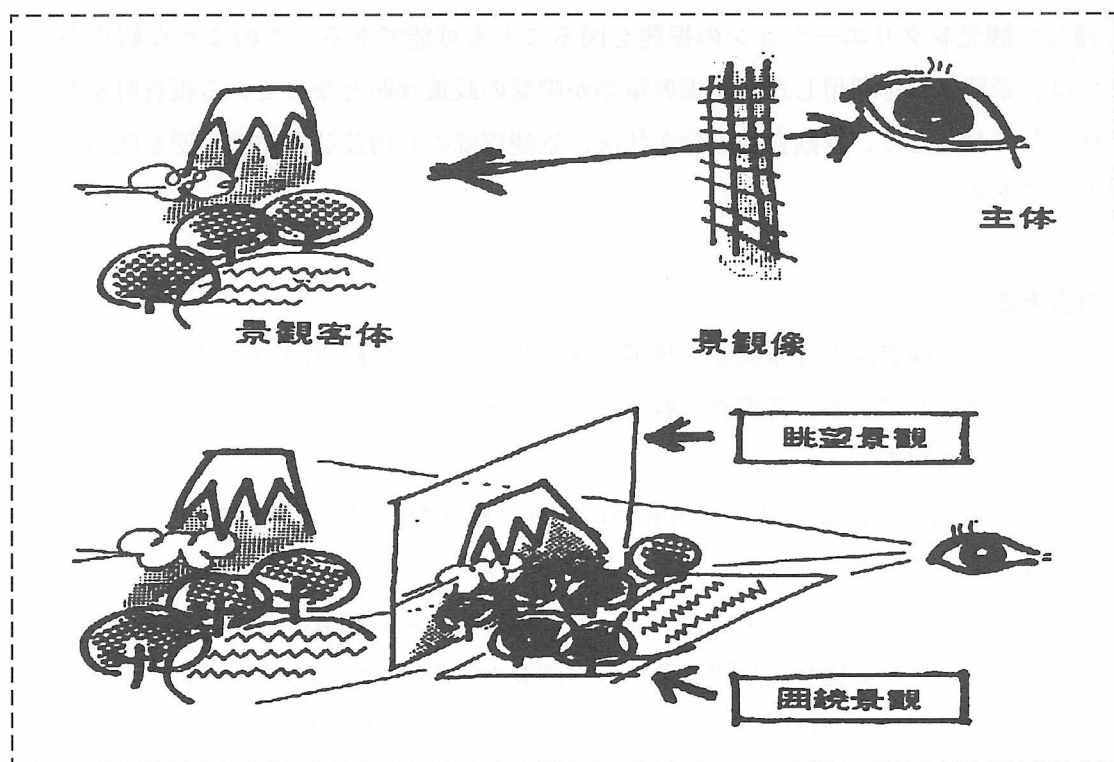


図1 景観把握モデル（塩田敏志）

\*東洋大学国際地域学部；Faculty of Regional Development Studies, Toyo University

的には自然や人の営みによって変化する動的な存在であるとする認識が必要である。このような特性を有している景観を出来る限り科学的に捉え、また、実際の景観保全につなげることが可能なようにするためには、ともすれば審美的な存在として捉えられがちな景観、とりわけ景観の評価を問題解決的、操作的、技術的に分析・整理していくことが重要であると考えられる。また、景観を科学的に捉えることは、ともすれば主観や好み等に左右されやすい景観を地域住民等に論理的に説明し、合意形成を図る上でも有効である。

本ケーススタディは、このような認識のもとに、これまでの景観研究の成果や視知覚心理学などの知見を活用しながら、板倉町における景観資源（本稿では、景観の客体である物的対象のうち主対象となり得るような要素を「景観資源」と称することとする。）の認知実態に関する研究を行ったものである。

なお、本稿のとりまとめに当たっては、筆者が担当して実施した東洋大学地域活性化研究所事業及び国際共生社会研究センター事業の成果の一部を活用したことをお断りしておく<sup>2) 3)</sup>。

## 2 調査目的及び方法

### (1) 調査目的及び対象地域

地域を代表する典型的な景観資源の認知実態の分析は、その地域又は地域住民のアイデンティティ（らしさ）の確立に資することであるといえる。また、地域特有の景観資源については、その活用を通じて観光レクリエーションの振興を図ることも可能である。このような観点から、本稿においては、景観資源を利用した観光振興策等が喫緊の政策課題となっている板倉町をケーススタディ地域として設定して、景観資源の分布状況、景観資源の利用及び認知の実態を明らかにしようとしたものである。

### (2) 調査方法

本調査研究は、景観資源の分布調査、景観資源の利用調査、景観資源の認知実態調査の主として3つの調査から構成している。各調査の概要は、次のとおりである。

#### ①景観資源の分布調査

現地調査、資料調査、ヒアリング調査等により、優れた景観資源のリストアップ作業を実施し、関係者によるスクリーニングを行うとともに、リストアップされた景観資源についての現地調査を実施した。なお、調査の実施に先立って、本事業に係る類似事業の事例調査や実施経験者に対するヒアリングを実施し、景観資源の分布調査の効率的な実施方法についての知見を収集した。現地調査の時期及び回数は、主に7月～10月にかけての計7日間である。

#### ②景観資源の利用調査

来訪経験調査及び立ち寄り地点調査の2種類の異なる方法によって景観資源の利用調査を実施した。1番目の方法は、板倉町の住民や観光客に対して、抽出された42の景観資源を対象とし

てこれまでの来訪の有無を訪ねる「来訪経験調査」であり、景観資源の一般的な利用実態を明らかにすることを目的としたものである。また、2番目の方法は、板倉町に来訪した観光客に対して、その来訪時に実際に立ち寄った景観資源を尋ねる「立ち寄り地点調査」であり、景観資源の利用の優先度等を明らかにすることを目的としたものである。1番目の方法による調査については、平成21年9月～10月にかけて、板倉町内において実施した。被験者の合計人数は46人、平均年齢は58歳、男女比率はおよそ13：10であった。2番目の方法による調査については、板倉町において最多の集客数を誇るコスモスまつりの機会（平成21年10月）を利用して実施した。被験者の合計人数は85人、平均年齢は55歳、男女比率はおよそ3：5であった。

### ③景観資源の認知実態調査

抽出された42の景観資源を対象として、その認知率に関する調査を実施した。被験者には、刺激としては42の景観資源の写真台帳を見せながら、「当該景観資源名を聞いたことがあるかどうか」という質問をする形式をとっている。また、広報等の手段により景観資源の認知度を挙げるのが具体的な来訪行動を惹起するような内容のものであるかどうかを分析できるように、「当該景観資源を訪ねてみたいかどうか」という問を併せて設定することとした。調査地点は板倉町であり、平成21年9月～10月にかけて、地域住民及び観光客等を対象として実施した。被験者の合計人数は46人、平均年齢は58歳、男女比率はおよそ13：10であった。

## 3 調査結果及び考察

### (1) 景観資源の分布状況と板倉百景との比較

板倉町には、数多くの景観資源がある。しかし、集客力や知名度といった点においては、全国レベルのものというよりは、その多くは地方～地区レベルのものであった。しかし、地域的に優れた資源として評価できる景観資源は相当程度存在する。また、景観資源の評価といっても、日常的風景（地域住民）や探勝的风景（観光客等）などと様々な視点があり、その視点の違いによって評価結果は異なってくる。これらのことを考慮し、本調査研究事業においては、本調査研究事業においては、車等の高速交通手段による物見遊山的な利用を前提とした景観資源ではなく、ウォーキング等の観光レクリエーション活動の際の立ち寄り資源としての利活用を前提とした景観資源を抽出して分布状況を調査することとした。結果は、図2及び表1のとおりである。計42の景観資源が抽出され、その分布実態が明らかとなった。また、この結果については、データベースとしても活用可能なように、景観資源台帳としても整理している（図3参照）。

なお、板倉町は2005年に町制50周年を記念して、板倉100景の選定事業を実施している。また、ヒアリング調査等の結果、板倉町民は、景観資源の価値のレベルの如何に関わらず、慣れ親しんだ各地域の景観資源を誇りに思っていることが明らかになった。このため、景観資源の抽出に当たっては、この100景との整合を図るとともに、季節的なイベント、閉鎖的な利用形態をとっている資源を除外することとした。また、個人の邸宅などのプライバシーの侵害等を



図2 抽出された景観資源の位置図

表1 抽出された景観資源（板倉百景との比較対照を含む）

一般利用者により抽出された景観資源	板倉町により抽出された景観資源 (板倉百景)	一般利用者により抽出された景観資源	板倉町により抽出された景観資源 (板倉百景)
谷中湖（渡良瀬遊水地）	渡良瀬遊水地	東洋大学・いずみの公園	東洋大学
	親水多目的ゾーン		板倉ニュータウン・いずみの公園
	谷中湖のウインドサーフィン	西丘神社・赤城塚古墳	南光院（西岡）
	激闘トライアスロン		西丘神社・赤城塚古墳（町指定史跡）
	渡良瀬運動場	雷電神社	雷電神社（県指定文化財）
	第8回渡良瀬遊水地花火大会		華麗な木彫
	想い出橋		雷電神社末社八幡宮稲荷神社社殿
	渡良瀬遊水地のよし焼き	高鳥天満宮	高鳥天満宮
	渡良瀬遊水地花火大会 3尺玉		天満宮の太々神楽
		天神池公園	天神池公園
北海老瀬のため池	－	権現沼・離山貝塚	権現沼
頼母子のシダレ桜・横穴墓群	頼母子横穴墓群（町指定史跡）		権現沼の春
	薬師堂のしだれ桜		離山貝塚（町指定史跡）
	かやの木（旧東小跡地）	一峯神社・一峯貝塚	一峯神社
水郷公園	群馬の水郷	古墳（舟山・筑波山・道明山）	筑波山古墳（町指定史跡）、道明山古墳
	群馬の水郷	行人沼など	行人沼と水生植物群
	群馬の水郷	資源化センター一帯の田園	麦秋
	揚舟ツアー		コスモス畑
グライダー滑空場・渡良瀬川	板倉グライダー滑空場	板倉ニュータウン・ふれあい公園	公園通り線
	渡良瀬川		板倉東洋大前駅・ふれあい通り
	渡良瀬川		板倉ニュータウン・ふれあい公園
利根川河畔	利根川		板倉ニュータウン街並み
	利根川夕景	除川の田園	－
谷田川	谷田川	除川神社	除川神社
	朝もや（谷田川）	五箇の堰堤一帯	下五箇桜堤
	雪の日（谷田川）	南光院	南光院（西岡）
	谷田川堤防 さくらづつみ		



一般利用者により抽出された景観資源	板倉町により抽出された景観資源 (板倉百景)	一般利用者により抽出された景観資源	板倉町により抽出された景観資源 (板倉百景)
板倉中央公園	板倉中央公園		肘曲がり池
	万葉集歌碑(板倉中央公園)	わたらせ自然館	わたらせ自然館
	ひょうたん池(板倉中央公園)	大高嶋の田園	田園風景－稲刈りあと－(大高嶋地先)
飯野の田園	田園風景－稲刈りあと－(飯野地先)		田園風景－田植えあと－(大高嶋地先)
	農道－水路－(飯野地先)	八幡宮	八幡宮(大曲)
	農道－雪景色－(飯野地先)	長柄神社	長柄神社
清浄院	清浄院(大高嶋)		長柄神社の狛犬
除川地区の集落	－	長徳寺	長徳寺
農産物直売所 季楽里	農産物直売所 健康の郷 季楽里	金蔵院	十二所大権現・エノキの大木
安勝寺	安勝寺梵鐘(国指定文化財)	実相寺	実相寺
	安勝寺「光明真言」金亀宝篋印塔		実相寺天井画
寺西貝塚	－	賀茂神社	賀茂神社
板倉川	板倉川	二本木	二本木
	板倉川夕景	花蔵院	花蔵院
谷田川中流部 (ゴルフ場付近)	八間樋橋	松安寺	松安寺
	八間樋頭首工		

景観資源台帳









整理番号 1

資源名称 谷中湖(渡良瀬遊水地)

内容 (整備主体、整備年、規模、特徴や見どころ、利用者数、指定など) |

- ・33平方キロメートルの広大な面積を誇る(東京ドーム約700倍)
- ・渡良瀬川・鬼川・巴川の流量を調整し、洪水を防ぐ役目
- ・首都圏の総合リゾート地として注目されている
- ・毎年トライアスロン大会が開催される
- ・自然観察会やウォータースポーツのメッカの場所
- ・夏には盛大に花火大会が開催される

写真 (現況写真の添付)

位置 (住所・番地、位置図の添付)




図3 景観資源台帳(例)

引き起こすおそれのあるものについても、同様の扱いとしている。

景観資源の評価といっても、日常的風景（地域住民）や探勝的風景（観光客等）などと様々な視点があり、その視点の違いによって評価結果は異なってくる。このような傾向は、抽出された42の景観資源と板倉百景との比較によっても観察できる。常日頃からの接触の機会が多いせいであると考えられるが、地域住民については景観資源の認識の密度が一般的に高い傾向が観察されている。例えば渡良瀬遊水地（谷中湖）であるが、一般客は、渡良瀬遊水地を一つの総体（マッス）として捉えてその景観資源としての価値を評価している。一方、地域住民については、渡良瀬遊水地、親水多目的ゾーン、谷中湖のウインドサーフィン、激闘トライアスロン、渡良瀬運動場、渡良瀬遊水地花火大会、思い出橋、渡良瀬遊水地のよし焼き、渡良瀬遊水地花火大会などと、資源を空間的に分割して評価したり、季節的な現象や当該資源に依拠して実施されている一時的なイベントについても分割して評価するなど時間的な区分を行っている。このような傾向は、他の景観資源についても見られている。

このことのよし悪しを一概に断じることは困難であるが、隠れた魅力を発見することが可能であるといった意味においては、同一の景観資源であっても空間的・時間的に分割して評価することは好ましいことであると考えられる。しかし、あまり細部にとらわれすぎると「木を見て森を見ず」というように全体としての価値の評価の失念といった弊害を招くおそれもあり、環境の総合的指標である景観の特質を損ねてしまうことになると考えられる。

一方、景観は、非日常的な景観と日常的な景観に分類することが可能であるが、日常的な景観資源であっても、それを眺める人の立場（属性）によっては、価値の高い景観資源として評価されることもある。また、それが一般化する場合には、一つの「見立て」のような現象が生じ、国木田独歩により評価された武蔵野の雑木林などのように「発見される景観資源」として社会的に定着する場合もある。

勝原文夫は、このような現象について、人間の審美的態度には、旅行者の態度に立つ場合と定住者の態度に立つ場合とが考えられ、また、景観の方でも、そのタイプとして、名勝等の非凡な探勝的景観と平凡な都市、農村景観から構成される生活的景観とが考えられ、一般的には、旅行者の審美的態度が探勝的景観に加わって探勝的風景を、定住者の審美的態度が生活的景観に加わって生活的風景を成立させるといえるものであると評している<sup>4)</sup>。板倉町の景観資源においても、除川の棚田や集落、海老瀬のため池など、地域住民には評価されないが、一般客（旅行者）の目線においては評価される景観資源もいくつか観察されている。これらの景観資源については、いわば板倉町内に広域的・普遍的に分布する景観資源であり、ともすれば地域住民にはあまりにも普遍的であるがゆえに見過ごされがちな景観資源でもある。しかし、実際は、このような景観資源が板倉町の景観的特性の基盤を支えるものである場合が少なくないことから、今後、こういった景観資源の価値評価については詳細な分析を加えていく必要があると考えられる。

## (2) 景観資源の利用状況

### ① 来訪経験調査

調査結果は、図4のとおりである。来訪経験の有無の割合（以下、本論では「利用率」と称する。）は、景観資源によってばらつきが大きく、最小値は22%、最大値は85%と63%の差があった。また、60%以上の人が来訪経験があると答えた景観資源は6資源と全体の9.5%となっており、それらの資源に対する来訪率は、雷電神社が85%、谷中湖（渡良瀬遊水地）が72%、資源化センター一帯の田園（コスモスまつりの会場）が72%、農産物直売所の季楽里が70%、水郷公園が67%、板倉ニュータウン・ふれあい公園が63%であった。

なお、板倉町住民と町外の住民との間の差はほとんどなかった。図5は板倉町外の住民のみについでの結果をグラフにしたものであるが、60%以上の人が来訪経験があると答えた景観資源は4資源と全体の9.5%となっており、それらの資源に対する来訪率は、雷電神社が88%、資源化センター一帯の田園（コスモスまつりの会場）が69%、谷中湖（渡良瀬遊水地）が65%、農産物直売所の季楽里が65%であった。

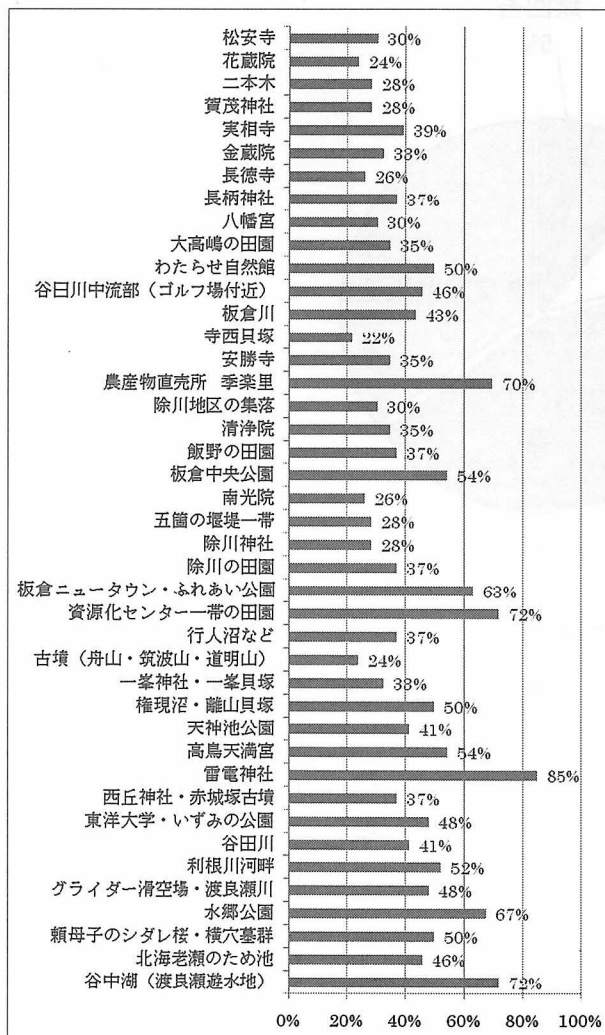


図4 各景観資源の利用率（全体）

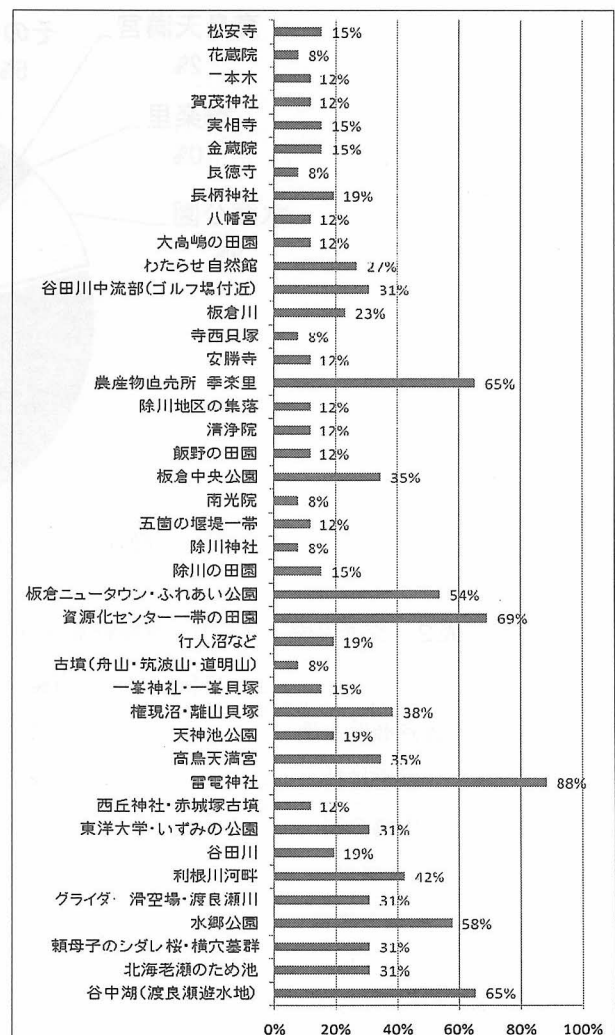


図5 各景観資源の利用率（板倉町外の住民のみ）

## ②立ち寄り地点調査

調査結果は、図6のとおりである。コスモスまつりの会場以外の場所に立ち寄った人は、ほぼ半分の43人であった。この43人の主な立ち寄り地点を調べてみると、その内訳は雷電神社が44%、渡良瀬遊水地が35%、水郷公園が9%、高鳥天満宮が2%の順になっていた。これを交通手段別に分類してみた結果が表2である。コスモスまつりの会場が路線バス等の公共交通機関の動線上から外れたところにあるせいであると考えられるが、他の場所に立ち寄る人の約9割は自家用車を交通手段として来訪した人という結果になっている（表2参照）。

なお、今回の調査は、予備調査的に実施したものであるが、板倉町の景観資源は各地域に散在しているため、「来訪」を景観資源の質の認識のメルクマールとすることについては、技術的な限界の存在が伺われた。今後の課題としては、効果的・効率的な調査方法を検討することが必要であると考えられた。

また、農産部直売所の季楽里については、後述する認知率の調査結果で76%の人が知っている」と回答しており、雷電神社、資源化センター一帯の田園（コスモスまつりの会場）、谷中湖（渡

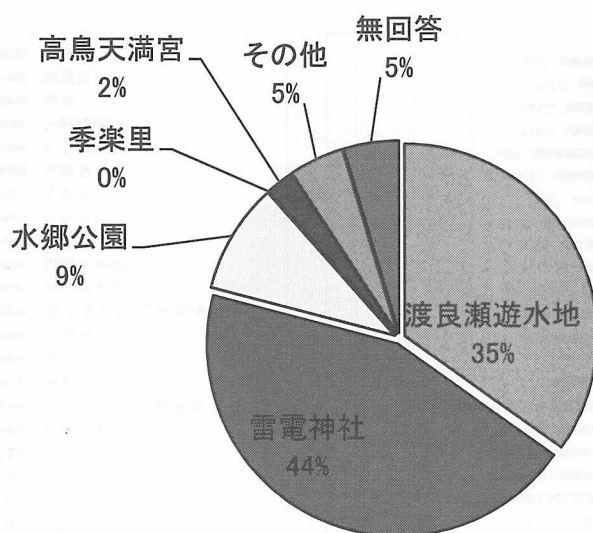


図6 主な立ち寄り景観資源

表2 交通手段・立ち寄り景観資源別の利用者数

	自転車	自動車	電車	その他	小計
渡良瀬遊水地	1	12	1	1	15
雷電神社		16	2	1	19
水郷公園		2	1	1	4
季楽里					
高鳥天満宮		1			1
その他		2			2
無回答		2			2
小計	1	35	4	3	43



良瀬遊水地)に次いで認知率の高い景観資源である。しかし、図6からも分かるようにこれらの認知率の高い景観資源の中で、その立ち寄り客数はゼロという特異な傾向を示している。これは、農産物直売所の季楽里が主要な動線軸から外れたところにあるということが多分に寄与していると考えられる。周遊行動を惹起できるようにするためには、その立地について再検討が必要であるのかもしれないことが伺える。

### (3) 景観資源の認知状況

認知状況に関する調査結果は表3に示したとおりであり、来訪経験とほとんど同様の結果を示していた。約7割以上の人が聞いたことがあると答えた景観資源は5資源と全体の10.9%となっており、それらの資源に対する割合(以下、本論では「認知率」と称する。)は、雷電神社が87%、資源化センター一帯の田園(コスモスまつりの会場)が85%、谷中湖(渡良瀬遊水地)が85%、水郷公園が76%、農産物直売所の季楽里が76%、板倉ニュータウン・ふれあい公園が70%であった。板倉町の観光パンフレットやホームページにおいて紹介されている主要な景観資源については、比較的高い値の認知率を示していると考えられる。逆に、認知率が3分の1(約33%)以下にとどまっているものは、五箇の堰堤一帯が33%、除川地区の集落が33%、花蔵院が33%、寺西貝塚が33%、古墳(舟山・筑波山・道明山)が30%、賀茂神社が30%、二本木が30%、南光院が28%であり、地域的な景観資源が多い傾向にあると考えられた。

なお、表3については、被験者の住所地(町内外)による差を明らかにするために、当該認知率を住所地で分けて集計したデータをあわせて示してある。いずれの景観資源についても、町内在住の住民の方が町外住民に比べて認知率が高い傾向が観察された。また、認知率に70%以上の差が生じている資源は、その差の大きい順に、わたらせ自然館が85%、頼母子のシダレザクラが76%、板倉川が37%、天神池公園が72%、板倉中央公園が72%の差である。逆に、認知率の差が30%以下にとどまっているものは、資源化センター一帯の田園(コスモスまつりの会場)が27%、谷中湖(渡良瀬遊水地)が27%、古墳(舟山・筑波山・道明山)が26%、雷電神社が23%、の差であった。

被験者の住所地(町内外)による差については、70%以上の差がある資源は5資源、逆に差が30%以下の資源は4資源であったということになるが、板倉町の観光パンフレットやホームページ<sup>5)</sup>を見ると、「谷中湖(渡良瀬遊水地)」、「雷電神社」、「水郷公園」、「わたらせ自然館」や「天神池公園」などは、板倉町の観光資源としてかなりの頻度で紹介されている代表的なものである。しかし、これらのうち、「谷中湖(渡良瀬遊水地)」、「雷電神社」、「水郷公園」についての認知率は相対的には差がほとんどなかった一方で、「わたらせ自然館」や「天神池公園」については、相対的に大きな差が観察されている。このことは、観光客となる町外の住民に対する広報等が期待する効果を発揮していないことを示しているのではないかと推測されるものであり、今後の町外の観光客誘致に向けた広報のあり方が課題となると考えられる。

また、広報等の手段により景観資源の認知度を上げることが具体的な来訪行動を惹起するような内容のものであるかどうかを分析するため、ある景観資源を知らなかった(聞いていなかった)と

表3 各景観資源の認知率

景観資源名	全体	町内 住民	町外 住民	差	景観資源名	全体	町内 住民	町外 住民	差
谷中湖（渡良瀬遊水地）	85%	100%	73%	27%	南光院	28%	55%	8%	47%
北海老瀬のため池	54%	85%	31%	54%	板倉中央公園	54%	95%	23%	72%
頼母子のシダレ桜・横穴墓群	52%	95%	19%	76%	飯野の田園	37%	75%	8%	67%
水郷公園	76%	95%	62%	33%	清浄院	39%	80%	8%	72%
グライダー滑空場・渡良瀬川	54%	85%	31%	54%	除川地区の集落	33%	65%	8%	57%
利根川河畔	63%	90%	42%	48%	農産物直売所 季楽里	76%	95%	62%	33%
谷田川	59%	85%	38%	47%	安勝寺	41%	75%	15%	60%
東洋大学・いずみの公園	67%	90%	50%	40%	寺西貝塚	33%	60%	12%	48%
西丘神社・赤城塚古墳	41%	80%	12%	68%	板倉川	43%	85%	12%	73%
雷電神社	87%	100%	77%	23%	谷田川中流部（ゴルフ場付近）	54%	90%	27%	63%
高鳥天満宮	61%	95%	35%	60%	わたらせ自然館	52%	100%	15%	85%
天神池公園	39%	80%	8%	72%	大高嶋の田園	37%	70%	12%	58%
権現沼・離山貝塚	57%	90%	31%	59%	八幡宮	39%	70%	15%	55%
一峯神社・一峯貝塚	39%	75%	12%	63%	長柄神社	43%	75%	19%	56%
古墳（舟山・筑波山・道明山）	30%	45%	19%	26%	長徳寺	35%	65%	12%	53%
行人沼など	41%	75%	15%	60%	金蔵院	37%	70%	12%	58%
資源化センター一帯の田園	85%	100%	73%	27%	実相寺	43%	80%	15%	65%
板倉ニュータウン・ふれあい公園	70%	100%	46%	54%	賀茂神社	30%	60%	8%	52%
除川の田園	43%	80%	15%	65%	二本木	30%	60%	8%	52%
除川神社	37%	65%	15%	50%	花蔵院	33%	55%	15%	40%
五箇の堰堤一帯	33%	65%	8%	57%	松安寺	35%	65%	12%	53%

いう人を対象に、当該資源の景観写真を見た後に行きたいと思った人の割合を集計した。結果は、図7のとおりである。

知らなかったが今後は行ってみたいと思う人の割合が半数を超える景観資源は、多い順に、水郷公園が82%、頼母子のシダレザクラ・横穴墓群が68%、農産物直売所の季楽里が55%、雷電神社が50%の4資源であった。この値は、期待値として読みかえることができる性格の数値であるが、町外住民による認知率は水郷公園が62%、頼母子のシダレザクラ・横穴墓群が19%、農産物直売所の季楽里が62%、雷電神社が77%であることとあわせて考えると、より一層の広報活動することにより利用率の向上を期待できる余地が高い景観資源は、頼母子のシダレザクラ・横穴墓群であり、次いで水郷公園、農産物直売所の季楽里の順になっていると考えることができる。

#### 4 まとめ

今回の調査研究により明らかにされた主な事項は、次のとおりである。

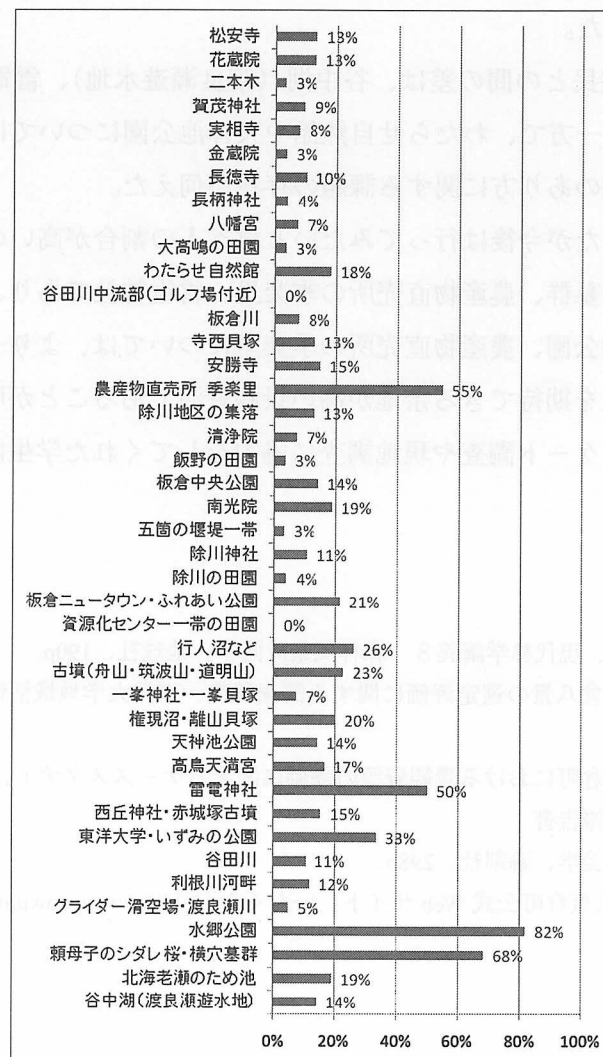


図7 各景観資源の利用率の期待値

- ①今回抽出された42の景観資源と板倉百景との比較をした結果、板倉町住民は景観資源を詳細に分割して抽出評価する傾向がある一方で、町内に広域的・普遍的に分布する資源については認識が希薄な傾向にあることが観察された。
- ②景観資源の利用率については、景観資源によってばらつきが大きく、最小値は22%、最大値は85%と63%の差があった。また、約7割以上の人々が来訪経験があると答えた景観資源は、雷電神社、谷中湖（渡良瀬遊水地）、資源化センター一帯の田園（コスモスまつりの会場）、農産物直売所の季楽里の4資源であった。なお、板倉町住民と町外の住民との間の差はほとんどなかった。
- ③コスモスまつりを訪れた人で、会場以外の場所に立ち寄った人は約半数であった。また、農産物直売所の季楽里については、その認知率が高いにもかかわらず利用者の周遊行動を惹起しがたい立地上の問題があることが伺えた。
- ④景観資源の認知率については、その利用率とほとんど同様の結果を示しており、板倉町の観光パンフレットやホームページにおいて紹介されている主要な景観資源については、比較的高い

値の認知率を示していた。

⑤板倉町住民と町外の住民との間の差は、谷中湖（渡良瀬遊水地）、雷電神社、水郷公園についてはほとんどなかった一方で、わたらせ自然館や天神池公園については、相対的に大きな差が観察されており、広報のあり方に関する課題の存在が伺えた。

⑥景観資源を知らなかったが今後は行ってみたいと思う人の割合が高いのは、水郷公園、頼母子のシダレザクラ・横穴墓群、農産物直売所の季楽里、雷電神社であり、特に頼母子のシダレザクラ・横穴墓群、水郷公園、農産物直売所の季楽里については、より一層の広報活動を行うことにより利用率の向上を期待できる余地が高い景観資源であることが明らかにされた。

なお、最後になるが、アンケート調査や現地調査に協力してくれた学生諸兄に深甚なる謝意を表したい。

#### 参考文献

- 1) 塩田敏志編・著 (2008)、現代林学講義8 森林風景計画学、地球社、190p.
- 2) 東海林克彦 (2009)、板倉八景の選定評価に関する調査研究、東洋大学地域活性化研究所報 No.6、pp.34 - 38
- 3) 東海林克彦 (2009)、板倉町における景観資源の評価に関するケーススタディ、東洋大学国際共生社会研究センター平成20年度研究報告書
- 4) 勝原文夫 (1979)、農の美学、論創社、298p.
- 5) 板倉町 (2009)、「群馬県板倉町公式 Web サイト いたくら」、<http://www.town.itakura.gunma.jp/>